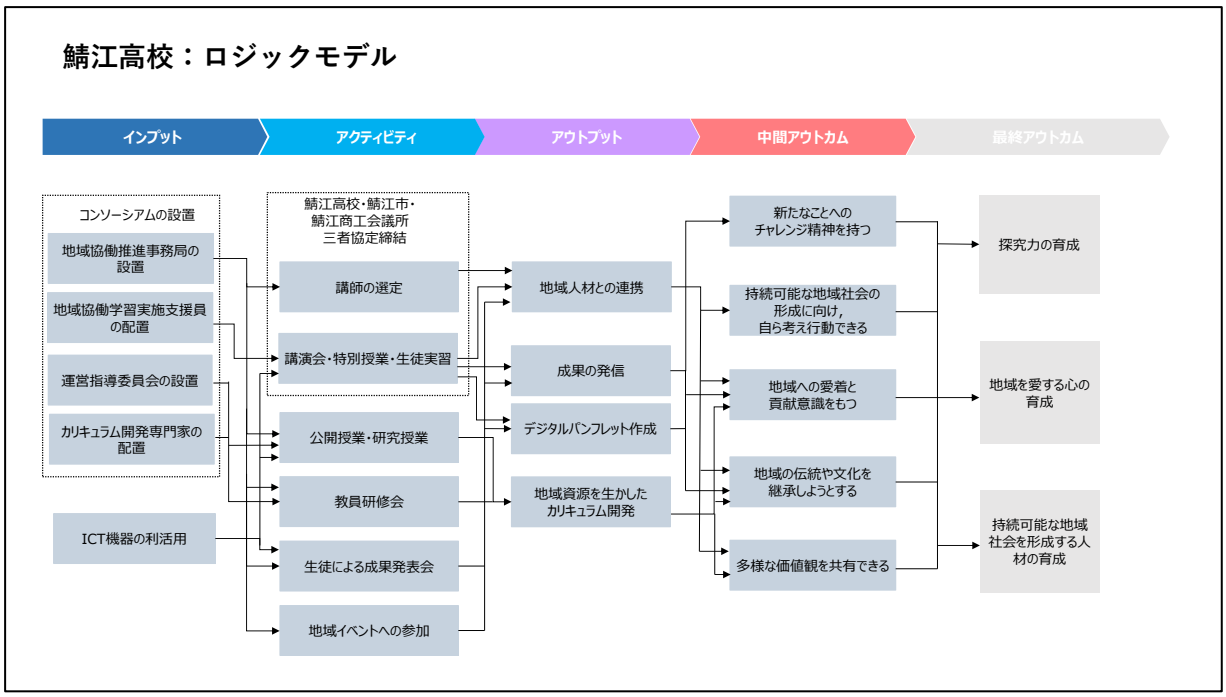
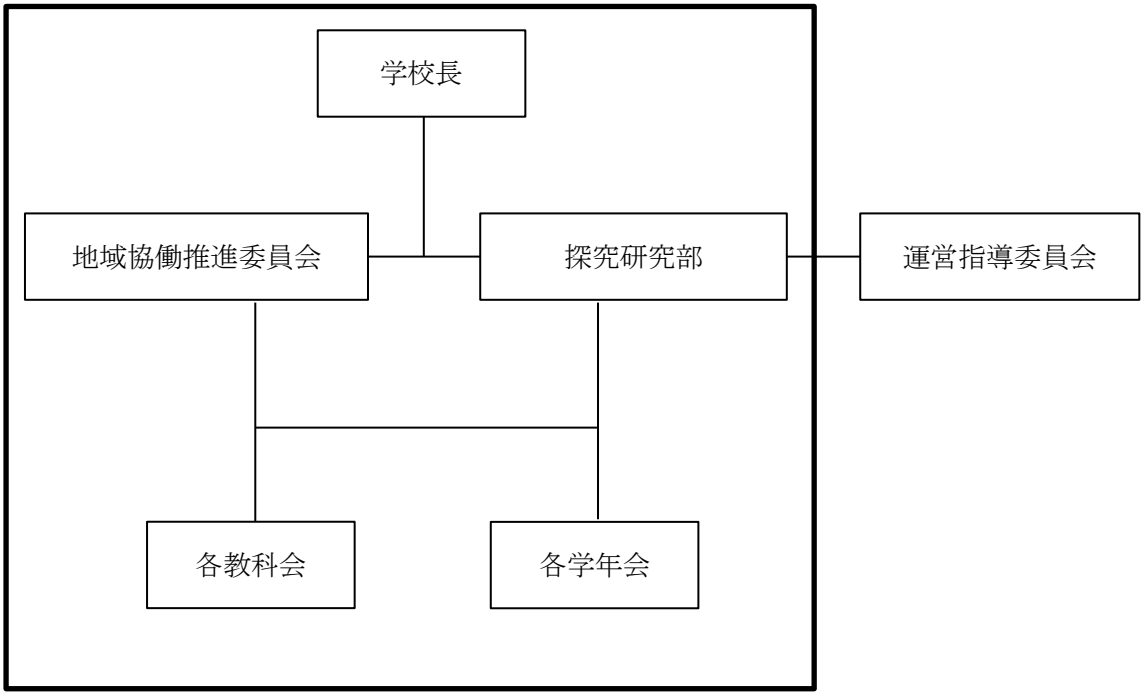
研究開発のロジックモデル



地域協働事業組織図



鯖江高校における探究学習の流れ

鯖江高校における探究学習

地域との協働を柱に、探究科・普通科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に向けたカリキュラムの開発

育成すべき生徒像

①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる生徒
②地域の伝統や文化を継承し、新たなことへのチャレンジ精神をもつ生徒
③多様な価値観を共有し、あらゆる人々を包摂する社会を形成する生徒
④持続可能な地域社会の形成に向け、自ら考え行動する生徒

身につけさせたい資質・能力

①知的好奇心をもち、何事にも疑問を発見し、それを解決したいと思う態度
②多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ表現する力
③他者に共感し、協調して問題解決を図る力
④目標の達成に向けて計画を立て行動する力

	探究科	スタンダードコース	各専攻
１年	**「探究」** ＜１単位＞ 探究学習の基礎段階 ・探究学習のスキル習得	**「総合的な探究の時間」** ＜１単位＞ 探究学習の基礎段階 ・探究学習のスキル習得	**「総合的な探究の時間」** ＜１単位＞ 探究学習の基礎段階 ・探究学習のスキル習得
	地域の課題や魅力などを活かした課題設定		
２年	**「探究」** ＜２単位＞ 探究学習の実施 ・地域との協働 ・大学との連携 ・中間報告	**総合的な探究の時間」** ＜１単位＞ 探究学習の実施 ・地域との協働 ・中間報告	**「総合的な探究の時間」** ＜１単位＞ 探究学習の実施 ・地域との協働 ・中間報告
	地域の課題や魅力などを活かした課題設定		
３年	**「探究」** ＜２単位＞ 探究学習のまとめ・発展 ・探究学習の成果発表 ・地域との協働	**「総合的な探究の時間」** ＜１単位＞ 探究学習のまとめ・発展 ・探究学習の成果発表 ・地域との協働	**「総合的な探究の時間」** ＜１単位＞ 探究学習のまとめ・発展 ・探究学習の成果発表 ・地域との協働
	探究学習の継承・継続・発展		

今年度の具体的な取組み

１年 探究科「探究」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和２年度　第　1　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　探究　学科

名　　称	探究	単 位 数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
6/10	探究学習に関するオリエンテーションとエンカウンター	50	グループ活動
6/12	対話を促す環境づくり	50	グループ活動
6/19	ナンバリングとラベリングを使ったスピーチの練習	50	ペア活動
6/26	探究学習の振り返りをポートフォリオに記録	50	個人活動
7/3	ブレインストーミングとＫＪ法を活用したアイディアの整理	50	グループ活動
7/10	ウェビングマップを活用したアイディアの整理	50	グループ活動
7/30	新聞記事の読み比べを通じたメディアリテラシーの育成	100	個人・ペア活動
8/3	インタビューの方法	100	個人・ペア活動
8/17	鯖江市の企業との交流会	150	一斉受講・個人活動
8/24	学校祭計画	50	一斉活動
9/18	文理分けに関する講演会	50	一斉受講
9/23	ＳＤＧｓの基礎知識	50	グループ活動
10/9	交通安全教室	50	一斉受講
10/21	防犯教室・情報モラル講演会	50	一斉受講
10/29	薬物に関する保健講話	50	一斉受講
10/30	福井県や鯖江市の将来像を考える	100	グループ活動
11/6	大学模擬授業	150	一斉受講
11/20	課題研究の進め方と問いの立て方に関する特別講義	50	グループ活動
12/4	課題研究の研究手法に関する特別講義	50	一斉受講
12/16	２年次から始まる課題研究のテーマ決め	50	個人活動
1/15	課題研究の問いの検討・先行研究調べ	50	個人活動
2/5	大学模擬授業	100	一斉受講
2/12	鯖江市の取り組みに関する特別講義	50	一斉受講
2/17	課題研究の問いの検討・先行研究調べ	50	個人活動
2/19	課題研究の問いの検討・先行研究調べ	50	個人・グループ活動
3/16	課題研究の問いの検討・先行研究調べ	50	個人・グループ活動
3/18	課題研究の問いの決定	50	個人・グループ活動

１年 普通科「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和２年度　第　１　学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　普通　学科

名　　称	総合的な探究の時間	単 位 数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
6/10	探究学習に関するオリエンテーションとエンカウンター	50	グループ活動
6/12	対話を促す環境づくり	50	グループ活動
6/19	ナンバリングとラベリングを使ったスピーチの練習	50	ペア活動
6/26	探究学習の振り返りをポートフォリオに記録	50	個人活動
7/3	ブレインストーミングとＫＪ法を活用したアイディアの整理	50	グループ活動
7/10	ウェビングマップを活用したアイディアの整理	50	グループ活動
7/30	図書室の書架探検	50	個人活動
7/30	地元鯖江に関連した新聞記事の読解	50	個人活動
8/3	新聞記事の読み比べを通じたメディアリテラシーの育成	100	個人・ペア活動
8/5	進路講演会	50	一斉受講
8/24	学校祭計画	50	一斉活動
9/18	文理分けに関する講演会	50	一斉受講
9/23	「２０年後の自分」についてのウェビングマップの作成	50	個人・ペア活動
10/9	交通安全教室	50	一斉受講
10/21	防犯教室・情報モラル講演会	50	一斉受講
10/23	ＳＯＳの出し方	50	一斉受講
10/29	薬物に関する保健講話	50	一斉受講
10/30	福井新聞社の記者による特別授業	100	一斉受講・グループ活動
11/6	大学訪問	150	一斉受講
11/13	新聞記事のテーマ設定	50	個人活動
11/20	インタビューの質問を考える	50	個人・グループ活動
12/4	新聞記事の情報収集	50	個人活動
12/16	インタビューの質問の練り直し	50	個人・グループ活動
1/15	新聞記事づくり	50	個人活動
1/29	新聞記事づくり	50	個人活動
2/5	大学模擬授業	100	一斉受講
2/12	鯖江市の取り組みに関する特別講義	50	一斉受講
2/19	新聞記事づくり	50	個人活動
3/16	新聞記事づくり	50	個人活動
3/18	新聞記事の読み合い	50	グループ活動

２年　「総合的な探究の時間」の取組み

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和２年度　第２学年　総合的な探究の時間　実施報告書

福井県立　鯖江　高等学校　全日制　課程　普通　学科

名　　称	総合的な探究の時間	単位数	1

月日	学　習　活　動	授業時数（分）	学習形態
6/10	オリエンテーション	50	一斉受講
6/12	ＳＤＧｓカードゲーム	50	グループ活動
6/19	ＳＤＧｓに関する探究学習のテーマ設定①	50	グループ活動
6/26	ＳＤＧｓに関する探究学習のテーマ設定②	50	グループ活動
7/3	ＳＤＧｓに関する探究学習①	50	グループ活動
7/10	ＳＤＧｓに関する探究学習②	50	グループ活動
7/30	ＳＤＧｓに関する探究学習③④	100	グループ活動
8/3	ＳＤＧｓに関する探究学習⑤⑥	100	グループ活動
9/18	ＳＤＧｓに関する探究学習⑦	50	グループ活動
9/23	ＫＰ法によるプレゼンテーションの練習	50	個人･ペア活動
10/9	進路講演会	50	一斉受講
10/21	防犯教室・情報モラル講演会	50	一斉受講
10/23	発表資料作成①	50	グループ活動
10/29	薬物に関する保健講話	50	一斉受講
10/30	発表資料作成②	50	グループ活動
11/6	大学模擬授業	150	グループ受講
11/13	発表練習	50	グループ活動
11/20	ＳＤＧｓに関する探究学習発表会	50	グループ活動
12/4	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り①	50	グループ活動
12/16	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り②	50	グループ活動
1/15	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り③	50	グループ活動
1/29	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り④	50	グループ活動
2/5	３年生担任講話	50	一斉受講
2/12	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り⑤	50	グループ活動
2/19	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り⑥	50	グループ活動
3/12	ＳＤＧｓ啓発ポスター作り⑦⑧	100	グループ活動
3/15	ＳＤＧｓ啓発ポスター発表練習①②	100	グループ活動
3/16	ＳＤＧｓ啓発ポスター発表①②	100	グループ活動

地域の方々にご協力いただいた活動

1年探究科「探究」

８月１７日（月）　鯖江市の企業との交流会

交流企業　（株）シャルマン

（株）白崎コーポレーション

（株）フクオカラシ

（株）ボストンクラブ

（株）ヨシケイ福井

内容　　地域協働ニュース第５号を参照

１０月３０日（金）　福井県や鯖江市の将来像を考える

講師　福井県未来戦略課　岩井 渉　氏

伊藤 秀馬　氏

内容　地域協働ニュース第６号を参照

１１月１０日（火）　夢を育て未来を築く教室

講師　伊藤忠商事株式会社　名誉理事　小林 栄三 氏

内容　地域協働ニュース第８号を参照

１１月２０日（金）　課題研究の進め方と問いの立て方に関する特別講義

講師　仁愛大学　西出 和彦　教授

内容　地域協働ニュース第９号を参照

１２月　４日（金）　課題研究の研究手法に関する特別講義

講師　仁愛大学　西出 和彦　教授

江南 健志　准教授

内容　地域協働ニュース第１２号を参照

１２月１４日（月）　２０３０ＳＤＧｓカードゲーム体験

講師　エコネットさばえ　楳原 秀典　氏

内容　地域協働ニュース第１３号を参照

２月１２日（金）　鯖江市の取り組みに関する特別授業

講師　前鯖江市長　牧野 百男　氏

内容　地域協働ニュース第１４号を参照

３月１６日（火）　課題研究の問いの検討・先行研究調べ

３月１８日（木）　課題研究の問いの決定

講師　仁愛大学　西出 和彦　教授

内容　生徒が取り組んでいく課題研究について，それぞれの課題に対する「問い」について助言・指導をしていただいた。

１年普通科「総合的な探究の時間」

１０月３０日（金）　福井新聞社の記者による特別授業

講師　福井新聞社　薮内 弘昌　氏

徳島 康彦　氏

内容　地域協働ニュース第７号を参照

冬休み～２月　新聞記事づくりのためのインタビュー

インタビュー対象　　鯖江市役所，鯖江商工会議所　他

内容　地域協働ニュース第２０号を参照

２月１２日（金）　鯖江市の取り組みに関する特別授業

講師　前鯖江市長　牧野 百男　氏

内容　地域協働ニュース第１４号を参照

２年「総合的な探究の時間」

１１月２０日（金）　ＳＤＧｓに関する探究学習発表会

コメンテーター　　鯖江市役所　　齋藤 邦彦　氏

服部 聡美　氏

さばえＳＤＧｓ推進センター　関本 光浩　氏

仲倉 由紀　氏,

内容　地域協働ニュース第１０号を参照

３月１６日（火）　ＳＤＧｓ啓発ポスター発表会

コメンテーター　　鯖江市役所　　齋藤 邦彦　氏

服部 聡美　氏

さばえＳＤＧｓ推進センター　仲倉 由紀　氏

川口 サマンサ　氏,

内容　地域協働ニュース第１８号を参照

各教科・部活動での取組み

６月２６日（金）　クッキング部 地元テレビ生放送で吉川ナスのアレンジレシピ公開

取材先　　ＦＢＣテレビ

内容　地域協働ニュース第２号を参照

７月３１日（金）　地理の授業での野外活動

講師　株式会社 田中地質コンサルタント 代表取締役 田中 謙次　氏

内容　地域協働ニュース　号外を参照

２月１０日（水）　音楽の授業での人形浄瑠璃体験
講師　近松座　大橋 國利　氏　他，計７名
内容　地域協働ニュース第１５号を参照

２月１７日（水）　音楽の授業での民族楽器音楽体験
講師　アマチュア演奏集団「轟音」メンバー　森眞 一郎　氏
内容　地域協働ニュース第１６号を参照

３月１８日（水）　現代社会でのジェンダーに関する特別授業
講師　さばえＳＤＧｓ推進センター　川口 サマンサ　氏
内容　地域協働ニュース第１９号を参照

その他の校外活動

８月　３日（月）　課題解決型学習モデル開発事業中間報告会への参加
課題解決型学習モデル開発事業は，２０１８年から福井県教育委員会により県内６校（丸岡高校，羽水高校，勝山高校，敦賀高校，若狭高校，鯖江高校）が参加して３か年計画で行われているものであり，今回の中間報告会では本校から２名の生徒が参加した。なおこの報告会は，次の週に行われた「生徒国際フォーラム」のリハーサルも兼ねていた。

８月１２日（水）・１３日（木）　生徒国際フォーラムへの参加
詳細は地域協働ニュース第４号を参照

２月　８日（月）　課題解決型学習モデル開発事業成果報告会への参加
本校から２年生の４グループが参加し，それぞれがこれまでの取組みの成果を発表した。またワークショップでは他校の生徒ともディスカッションし，交流を深めた。

教員研修会

７月２０日（月）　鯖江を知ろう
講師　ＮＰＯ法人エル・コミュニティ代表　竹部 美樹　氏
内容　地域協働ニュース第３号を参照

１１月２５日（水）　２０３０ＳＤＧｓカードゲーム体験
講師　エコネットさばえ　楳原 秀典　氏
内容　地域協働ニュース第１１号を参照

２月１２日（金）　元市長と語る会
講師　前鯖江市長　牧野 百男　氏
内容　同日に生徒向けに行った講演会と同じものを，放課後に教員向けに講演をしていただいた。詳細は地域協働ニュース第１４号を参照

打合せ・協議など

４月～　教員研修などに関する助言・アドバイス

カリキュラム開発等専門家（木村 優 氏）とメールを利用し，教員研修会の計画立案などについてご指導をいただいた。

６月２３日　今年度の実施計画について打ち合わせ

地域協働学習実施支援委員（竹部 美樹 氏）と，今年度の実施計画について，打ち合わせを行った。

８月１２日（水）・１３日（木）　生徒国際フォーラムへの生徒の参加について

生徒国際フォーラムへ参加に関して，木村 優 氏にご指導・ご助言をいただき，生徒にあったグループを考慮していただくなど，生徒が参加しやすい環境を整えていただいた。

９月　鯖江市，商工会議所へのアンケート

コロナ禍で連携協議会が実施できない状況であったため，アンケートをとり，鯖江高校に求めるもの（学校像，生徒像など）や期待していることを調査した。

１１月２５日（木）　鯖江市役所との打ち合わせ

ＳＤＧｓカードゲームの教員研修が行われる前に，鯖江市役所の担当者と，これまでの報告や今後の活動について打ち合わせを行った。

１２月１０日（木）　地域探究カンファレンスでの協議

木村 優 氏をファシリテータとして，課題解決型学習モデル開発事業に参加している６校をオンラインで接続し，地域探究の在り方などについて，各校の現状報告や意見交換などを行った。

仁愛大学と鯖江高校との高大連携・高大接続に関する協定書締結

２月２６日（金）　詳細は地域協働ニュース１７号を参照

運営指導委員会

第１回運営指導委員会

日時　１１月２０日（金）

１３：０５～１３：５５（５限目）　公開授業（１・２年の総合）

１４：１０～１５：３０　運営指導委員会

第２回運営指導委員会

日時　２月１９日（金）

１３：０５～１３：５５（５限目）　公開授業（１・２年の総合）

１４：１０～１５：３０　運営指導委員会

議事録

令和２年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第１回　運営指導委員会　議事録

１　日時　　令和２年１１月２０日（金）　　１４：１０　～　１５：３０

２　場所　　鯖江高等学校　視聴覚室

３　参加者

	佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長
	田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
	宮本 昌彦	鯖江市産業環境部長
（欠）	澤 和広	鯖江市中学校長会長
（欠）	齋藤 多久馬	鯖江市社会福祉協議会 会長
	大正 公丹子	福井県教育庁 高校教育課 参事
	山田 寛之	福井県教育庁 高校教育課 主任
（欠）	福嶋 洋之	校長
	川畑 順一	教頭
	渡辺 康仁	教務部長
	中山 孝士	進路指導部長
	山田 雅彦	地域協働推進事務局長
	山田 繁	地域協働推進事務局員
	千葉 章代	地域協働推進事務局 書記

４　内容

（１）　教頭挨拶

昨年度に引き続き，今年度も多くの取組みを進める予定だったが，新型コロナウィルスの影響もあり，昨年度ほどの取組みは進められていない現状である。しかし，3ヶ月間の休校の後，生徒の健康管理を徹底し感染防止を念頭に教育活動を進め，現時点では休校による遅れは取り戻した状況と考えている。

丹南地区高等学校再編事業がこの春スタートし，新体制のもと，様々な目標・特技・考え方をもつ生徒が切磋琢磨しながら寛容・共生の精神で様々なことに挑戦している。生徒自身の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し，今年度の１年生から「総合的な探究の時間」を改めて設計し直して取り組んでいる。

委員の皆様より，様々な視点からご指導を頂きたい。

（２）　県教育委員会挨拶

コロナ禍の大変な中での運営指導委員会開催，そして皆様の参加に感謝する。

昨年度は初年度の取組みに対する様々なご意見を運営指導委員の皆様から頂戴したと伺っている。今年度は新型コロナウィルス禍の中で，また新しい生活様式の中での研究が求められているが，鯖江高校では今年度より新しく探究科が設けられ，授業改善と更なる地域との連携による探究活動を模索していると聞いている。県教育委員会としても，鯖江高校の研究成果に多いに期待している。

運営指導委員の皆様には今後の研究開発のために，ご指導・ご助言を頂きたい。公開授業や概要報告等を踏まえ，生徒の学びまたは研究について，忌憚のないご意見を頂ければ幸いに思う。

鯖江高校には本日のご意見を参考にし，今後の研究開発が一層充実したものになるよう，地域人財育成の一助になるよう祈念する。

（３）出席者紹介

（４）概要報告

・今年度のこれまでの取組みについて
・今後の予定について
・今後に向けて

別紙参照

（５）運営指導委員からの指導・助言

〈佐川氏〉

大学では，教科に縛られず学生は学びたい教科を自由に選び学ぶことができる。しかし高校までは，教科が非常に重要で，特に進学校では大学の入試に向けて用意されたものをどれだけ学ぶか？それを記憶してどう引き出すか？にかかわってくる。その中で，今日の公開授業の教科は，主要教科ではない「総合的な探究の時間」だったが，新聞の話やSDGsや西出先生のお話などを，先生方がどんな狙いをもって用意されたのか？後ほどまた補足願いたい。

学力の三要素として，「①基礎的な知識・技能」が先ず重要とされ，これまで試験の内容になっていた。次に，考え判断しどう表現するかという「②思考力・判断力・表現力等の能力」，そして主体的に学ぶという力「③主体的に学習に取り組む態度」が挙げられる。これら三要素の中の，②と③の学力の習得において，総合的な探究の時間は非常に重要な意味を占めていると改めて確認した。教科書から学ぶというスタイルでは探究活動はできない。今日の授業では，生徒自らが課題を見つけ学んでいくというスタイルができていて，アクティブラーニングそのものがどの教室においても展開され，“生徒が授業をつくっている”と感じた。

これまでは，生徒が教室の中で先生にリードされながら手を挙げて答えたり，役割を演じながら学んできたと思うが，今日の授業では，自分たちが考えたストーリーをもって主体的

に学んでいる姿を見ることができた。このことは大変に重要で素晴らしいことだと感じている。

この探究の授業は「学ぶ」ということを定義し直す優れた授業になっている。国語や数学とは違って，生徒自身が授業をつくっているということを上手く生徒に伝えていってほしい。

生徒の中には，答えを急ぐ部分があるかもしれない。新聞で課題をみつけたときに，答えは一つではない，正解が一つではない，発表をして終わりではなくそこから始まる，ということを体験的に学ばせる工夫が今後も必要になる。

探究活動は，実社会に出てからの，暮らしや働くということや生きる力，様々な学びとつながっていて，入学試験をパスした先の大学でどう学ぶか？それらのトレーニングができていると感じた。

〈田中氏〉

肌感覚として，昨年度より数段ランクアップしている雰囲気を感じた。発表の声が相変わらず小さかったりはしたが，生徒の考え方や授業に対する取組みが大変に向上している。

“考え方の考え方”そういうものを伝えることはとても大事だと，授業を見ていて感じた。そこが弱いと調べ学習をしていても「考え方が分からないから考えられない…」というループに陥り，問題の解決として，広報はSNS，関心をもった人が資金を払うなど，短絡的な手段を選んでしまう。今後考え方の掘り下げが大切になってくると思う。何が問題で，その問題をどういう手段で解決するか？常にその思考をもつことをトレーニングさせることが重要である。

昨年，インターンシップやアルバイト感覚で，地元の企業に入ったらどうか？提案したが，地域に入っていくことで直面する課題が浮き彫りになり，より深い部分で解決策を模索することができる。地域課題解決に当てる時間がなかなか作れないとは思うが，放課後活動として一週間に一時間でも半年間続けてみるなど，長期スパンで部活動感覚で企業に入っていけたら，新しい改革の一つになる。受け入れ可能な企業は多くあると思う。

生徒が外に飛び出して地域を見つめる，新しい考え方を植え付けられることによって生徒の取り組む姿勢が強化される，そして帰って来たときに，より幅広く深く考え問題解決に挑戦することができる。この論理のもと，どんどん外に飛び出してほしい。

色々なフォーラムに参加したり，大会に挑戦したりの活動は，大変に素晴らしい。根こそぎ出場すると良いと思う。他社評価を受けることは自己肯定感につながり，生徒の血肉になる。

〈宮本氏〉

今日の西出先生の授業は，これから探究科が前に進んでいく上で非常に良かった。自分の学生時代を振り返ると，ゼミや卒論で“自分で調べていく”ということが一番面白かった。大学でも社会に出てからも“疑問があったら調べる”その繰り返しだと思うが，その導入部分として，総合的な探究の時間はとても効果的だと感じた。

鯖江市では，ものづくり博覧会を毎年開催しているが，今年はコロナ禍で中止となり，その代わりに鯖江市JK課の職員が，鯖江市内の眼鏡・漆器・繊維，様々な企業を取材し，バー

チャルファクトリーツーリズムと名付けて動画配信を行っている。その動画を鯖江市内の中学生に見せたところ，興味をもった生徒が８割を占めた。しかし，鯖江市内の企業に就職したいか？という問いには７割の生徒が就職したくないと答えた。「めがねのまちさばえ」を全国に発信はしているが，まだまだ鯖江の中で鯖江の産業が根付いていない，地元の学生は職業的に興味関心をもっていないという残念な結果となった。今後の教員研修などで，眼鏡会社などの話しを先生方にも十分に聞いてもらえるとありがたい。

鯖江高校が商工会議所で行ったような取組みは素晴らしいと思う。県外に出ても自分たちが鯖江出身であることに誇りをもってもらいたい。そして鯖江の産業に興味関心をもってもらいたい。

前回人権の話しをしたが，大学・社会に出てから多様性をもった人たちとの関わりは多くあると思う。今後，人権問題に関する授業も充実させてほしい。医療関係者への差別発言などが問題となっているが，これだけ多様性のある社会の中で，何故そのような問題が出てくるのか？問題意識をもつ幅広い視点をもった人間を育てて頂きたい。

〈大正氏〉

学校と地域，お互いどれだけ心を開けるかで生徒の学びが変わってくると感じる中，地域も大変に協力的で，生徒が積極的に地域に出ていく姿が素晴らしい。今後更に深めていくと，また良い成果が出るだろうと期待する。

探究活動は担任の先生が指導していると思うが，全部のクラスで一斉に活動するときに，何を指導するのか？先生方の共通理解ができていて素晴らしい。教員研修会など開いてしっかりと共通理解を深めているのだろうと感じた。

気になったところは，やることに重点をおきすぎて，最終的な目標が見えなかった。どこをどう評価し，次の道筋につなげるのかの最終目標を次回見せて頂きたい。

今活動していることは，文科省の「社会に開かれた教育課程の実現」という目標につながっており，最終的には全ての学校に広めていきたいと考えている。大変だとは思うが，これからも積極的に取り組んで頂きたい。

先の佐川氏の質問について

Q.今日の公開授業「総合的な探究の時間」は，どんな狙いをもって用意されたのか？

A.１年生の普通科は２年次から始まる本格的な探究活動をする上で，地域の方にインタビューをしたりなど，地域との関わりを体験する狙いをもっている。次年度の学習の前段階として，聞いたことをどう表現するか？などを学習する。

探究科では，次年度より探求時間が２倍になるため，４月のスタート時から普通科とは切り離して，課題設定の仕方など前倒しでメニューを組んでいる。

２年生は，地域に入っていっての探究活動を企画していたが，コロナの影響で難しくなり，予定を変更し，鯖江市 SDGs に関係する探究活動をスタートさせた。

〈佐川氏〉

新聞という材料は，広がりがあって大変に良い。自分が考えるということと，成果を人に還元するという要素がある。“取材をし，記事を作り，そして伝える”その技術は単に学びではなく，正確に伝えることの大切さを実感し，記事が人を感動させ笑顔にさせ地域の中に話題を作り出すといった力をもっていることを体感することができる。

“問題をたて・調べ・考え・答えを出し・伝える”そのプロセスは，研究と学びの一致度が高く，研究と学びがつながっていることがわかる。

成果報告には，成果として分かりやすい報告のほか，先生たちがどう悩んだか？先生たちのもがき苦しみを伝えるのも重要かもしれない。裏方を見せるのも今後の広がりという点でとても良い。今年度，先生たちが相当練り込み工夫した後が見られる。

SDGs のための教育，ESD(Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)も非常に重要で，今後 ESD への関心をもつと良い。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」が，最初は地域と連携して学ばせることでスタートしたが，学びの場所は学校だけではない。地域でも学ぶし高校でも学ぶ，教室が広がっていると捉える，そういう授業に展開していけると良い。

“暮らしと生業が地域”と理解すると，暮らしと生業について高校生として学ぶ，そんな授業展開もあるのではないかと思う。高校生自身の暮らしや，家族の暮らしをどうするか？将来のことを考えると職業人としてどうやって生きていくか？様々なことを高校生の時期に高校生として学ぶ。とても広がりがある事業なので，3 年度を見据えながらの活動展開に期待している。

〈田中氏〉

ユーザーがもっている問題を察知し，SDG s の論理に当てはめて解決していくのが開発目標であり，SDGs を学ぶことは，ゴールではなくスタート，問題をどうやって解決するか？そこからの発展を望んでいきたい。

今日の高大連携授業には大変感銘を受けた。生徒の学ぶ姿勢なども大変よく，是非また深めると良い。企業との連携もまた進めていってもらいたい。

（６）その他

・令和３年２月ごろに第２回運営指導委員会を開催予定

令和２年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業
第２回　運営指導委員会　議事録

１　日時　　令和３年２月１９日（金）　　１４：１０　～　１５：３０

２　場所　　鯖江高等学校　視聴覚室

３　参加者　（欠）佐川 哲也　金沢大学地域創造学類長
田中 謙次　福井経済同友会人づくり委員会 副委員長
宮本 昌彦　鯖江市産業環境部長
澤 和広　鯖江市中学校長会長
（欠）齋藤 多久馬　鯖江市社会福祉協議会 会長
大正 公丹子　福井県教育庁 高校教育課 参事
山田 寛之　福井県教育庁 高校教育課 主任
福嶋 洋之　校長
川畑 順一　教頭
渡辺 康仁　教務部長
中山 孝士　進路指導部長
山田 雅彦　探究研究部長
山田 繁　探究研究部 地域協働担当
千葉 章代　探究研究部 書記

４　内容

（１）　校長挨拶

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため新しい生活様式での活動が求められるなか，授業進度の確保などもあり，予定していた全てを実施することができなかった。しかし，多方面からのご指導・ご協力のもと一定程度活動ができ，大変ありがたく感じている。

特に今年度は，世界的な「SDGs」に対する意識向上を踏まえ取り組むことができた。「さばえSDGｓ推進センター」が設置されたこともあり，生徒も教師も様々な学習をさせていただくことができた。関係の皆様には改めてお礼申し上げる。

また，丹南地区高等学校再編事業１年目を無事に終える見通しとなった。各課程・学科・コース・専攻の生徒が混じり，様々な目標・特技・考え方をもつ生徒が切磋琢磨しながら寛容・共生の精神で様々なことに挑戦していくことを願っている。

いよいよ来年度は事業実施の最終年度となる。この活動による生徒の変容を改めて評価するとともに，この成果を県内はもとより全国へ発信することが使命であると心得ている。そのためにも，今年度の活動に対し忌憚の無いご意見を賜り，最終年度の活動・運営の設計に努力していきたい。

（2）　県教育委員会挨拶

運営指導委員の皆様にはご多忙の折参加いただき，また鯖江高校の先生方にはコロナ禍の大変な中ご苦労もある中で活動を展開していただき感謝する。

前回の運営指導委員会では委員の皆様から沢山の貴重なご意見を頂戴した。鯖江高校の方ではそれらのご意見を踏まえ，課題解決に取り組んでいる。生徒たちが地域社会に関わりながら，具体的に考える力や問題解決をする力，自分の考えをまとめて表現する力などを培っている。

県教育委員会としても，鯖江高校の研究成果に多いに期待しており，今後他の学校へ活動を普及していただきたいと考えている。

運営指導委員の皆様には前回同様，今後の研究開発のために，忌憚の無い色々なご意見ご指導をいただきたい。鯖江高校においては，これらのご意見ご指導を参考に，最終年度に向けて研究開発が益々発展するよう祈念する。

（3）概要報告

・今年度のこれまでの取組みについて
・アンケート結果の分析
・次年度(最終年度)に向けて

別紙参照

（4）運営指導委員からの指導・助言

〈田中氏〉

4回目の参加となるが，回を増す毎に生徒の取り組む姿勢が向上している。プログラムも申し分なく，生徒の変化が感じられる。

Zoomを活用したインタビューでは，皆が下を向いてメモを取っていて残念だった。Zoomでのコミュニケーションは難しいが，相手の目を見て心で話しを聞いて欲しい。そうすることで情報がどんどん下りてくる。会話は録音して後で聞き直せば良い。

テーマは良くても，話しをすることや話しを聞くことに慣れてないと感じた。行間を含めて聞き，聞く側がどんどんと情報を引き出すことが重要である。

課題設定が面白いと感じる一方，普段の生活にないところに課題をおき，グローバル過ぎるのではないかと感じた。大学ではなく高校なので，身近なところから問題を探す活動をすると良いと思う。また，保育士や看護師関連が多いのは，知っている世界が狭いためだと考えられる。より多くの様々な職業活動を知ることが大事である。地元に入って地元を肌で感じてもらいたい。

【二十歳の環境活動家　露木 志奈(つゆき しいな)氏の紹介】

横浜中華街生まれ。バリのグリーンスクールを日本人で初めて卒業した。日本の中学校を卒業後，英語を学ぶため単身インドネシアに渡り“世界一エコな学校”と呼ばれるグリーンスクールに通う。この学校はジャングルの中にある竹で出来た校舎で「持続可能な世界をつくるリーダーを育てる」をコンセプトに掲げている。そこで過ごした日々が今の活動につながっている。

今大学で学ぶことよりこの世代で環境活動をすることが大事だと考え，2020年9月から慶応義塾大学を休学し，気候変動をテーマに環境活動を行っている。世代が近いから伝わり易いと考え，全国の学校で講演を行っている。

20世紀に起きた多くの市民活動を調査した結果，非暴力的なムーブメントは賛同する人がその集団の3.5%に達したとき成功するケースが極めて高いという研究結果より，彼女もこの活動を一過性ではなく，きちんとしたムーブメントにしていきたいと考え，日本の中高生600万人のうち3.5%にあたるおよそ21万人に伝えることを目標に活動している。

Sustainable business magazine alterna ～オルタナ～ より

旅費交通費のみで無料で講演をすると言ってくれているが，謝礼も考えて是非福井に来てもらいたい。藤島高校が是非にと興味をもっているので，鯖江高校も含めて3～4校と，それから県内の企業も交え時期を合わせ，2泊3日位で来福し講演してもらいたいと考えている。

妹の肌が弱く，化粧品のオリジナルブランドを立ち上げている。行動を起こし実際にSDGsをやっている彼女の講演を聞いて，自分もアクションを起こそう！思ってもらいたい。

〈澤氏〉

Zoomを使ってのインタビューは，今後中学校でも活用していきたい。

小・中学校で地域にかかわる学習をするなかで，地域が活性化するために何をすべきか？という問題に取り組んできた。目標が高いのでは？という話しがあったが，小・中学校でのふるさと教育を経て，高校では目標レベルを高くすることを生徒が意識しているのかもとも感じた。

テーマ設定の部分から講師を招いて丁寧な指導があって，大変に素晴らしい。実際携わっている専門家の言葉は貴重で，色んな視点からの考え方を学ぶことができ，価値観が広がり新たな学びにつながると思う。

生徒が社会的な問題に目を向け，そして取組みについて考える機会を与えてもらっていることは，将来に確実につながっていると感じる。中学校でも是非参考にしたい。

〈宮本氏〉

答えのない問いに挑み続けるのが探究科であるが，小・中学校の時に自分で調べて自分で答えを見出すことに飢えている生徒が多く，鯖江高校の探究科を目指す生徒が多くなり倍率が高いのかもと感じた。

教室の中での学習だけでなく，身近なところに出ていくということが生徒の身になっている。色んな人の話しを聞いて自分で答えを見出すことが，延いては社会貢献につながり，社会の役に立つ人材に育つと感じた。

探究活動を続ける生徒は将来が有望で，探究科は人間にとって必要な教科，是非続けていっていただきたい。

〈大正氏〉

聞く力が不足しているとのご指摘があったが，加えて伝える力も不足していると感じた。発表の仕方に問題があり，今後指導が必要である。ポスターのデザインや新聞のレイアウトについて，面白い材料が多くあるものの表現の仕方に躓きを感じた。ポスターには全部の事柄を入れるのではなく，大事なところを絞ることで相手に伝わり，アートの部分も大切である。国語の時間も活用して伝え方の文章の作り方など，横断的に授業を行っていくと効果的だと思う。相手にきちんと伝わったことで満足感が得られ，達成感が生まれる。

次年度に向けて，ものをつくって終わりにしないよう，研究の最終的な目標は，持続可能な鯖江を形成する市民の育成なので，つくる過程でどのような力が必要かに目を向けて，成果物より過程を大事にしていただきたい。

〈田中氏〉

Q. シラバス授業計画的には 3 年目も 1～2 年目と似た様な形で，ゲストを呼んで進めていく予定か？

A. 教科でのイベントなどをもっと増やしていきたいと考えている。総合的な探究の時間では地域の方に月に 1 回来ていただくなど，より地域の方とかかわる機会を増やしていきたい。2 年生の探究科は，自分の課題研究を進めていくなかで企業とつなぐなどの機会を増やし，普通科でも成果物をつくるときに，各企業の方の話しを聞くなどの機会を増やしていきたいと考えている。カリキュラムを変えていきながら，次年度以降も続けていきたい。

〈田中氏〉

Q. 問題設定・課題解決が自分ごとになっていないと感じた。自分ごとになると，用意してある質問に答える一問一答ではなく，自分の言葉でより深い話し合いができる。自分ごとになるための戦略として，ファシリテーターを入れて問題解決に向けて舵を取るなどしてはどうか。授業という短い時間の中で如何に活動するかが鍵となる。ネットに頼らず頭を使うことも大切である。

A. 校外の方に来てもらうより，生徒が可能な限り外に出ていきたいと考えている。探究科は次年度以降，探究の時間が 2 時間取れているため，放課後延長を含めて外に出易くなる形を企画している。

〈田中氏〉

Q. 例えば，歴史の道で問題設定・課題解決をしてみるなどしてはどうか。季節や利用者の年齢，時間帯などによって色んな問題が潜んでいると思う。フィールドが近いところで気楽に考えてみると，自分ごととして，SDGｓをベースに解決していく事柄が多くあると思う。先ずやってみることが大事である。

A. 他学校の発表などを見聞きしても，自分ごとになってないから，調べて終わり・発表して終わりということが往々にして起こっていると感じる。来年度はものをつくるイベントを企画するなど，過程を大切にし，そして目に見える成果を示して自分ごとにしていきたい。

〈田中氏〉

SDGｓはベーシックであって，SDGｓのために何かやるのではない。SDGｓにこだわって課題設定をすると，自分ごとから離れてしまう。SDGｓは常に心の中にあるもので，自分ごとの問題解決に挑むなかで，気が付いたらSDGｓだったというものである。これからの産業や生活のベース全てがSDGｓである。

〈校長〉

タブレットを昨年末660台入れていただいた。今後どんどん活用して，学校全体あらゆる授業で文房具になるようにしていきたい。ネット環境を整えて，どんな風に活用していくのか，我々も研究していく必要がある。地域協働と合わせて色々なタイミングで活用させていただきたいと考えている。

〈田中氏〉

欧米と徐々に肩を並べる教育システムに整ってきている。しかし，デジタルに頼り過ぎて伝わらなくなることもあり，アナログも上手く取り入れていってもらいたい。オンラインとオフラインをバランスよく使うことで秀でた高校になっていくと思う。

〈校長〉

来年度第一回運営指導委員会時に，生徒の発表会を行いたいと考えている。探究科の課題研究や，普通科の様々な地域とつながった課題研究を発表することで，我々が2年半かけて活動してきたことを公開したい。

来年度探究科では探究の時間を2単位設けている。課題研究をメインにおきSSH校でやっているようなことをさせたいと考えている。普通科では，地域と結びつき様々な活動をし，そして発信していきたい。専門コースでは，学んでいることをどのように社会に還元できるか，どのように社会と結びつけるかを考えている。例えば小学生や中学生に様々な教室を開くなどの活動をしていきたい。スポーツでは体操教室，ITではプログラム教室，デザインでは絵画教室など，小学校・中学校・そして大学や一般社会人，地域全体とつながれるような発信をしていきたい。

丹南高校が令和4年度に閉校された後，キャンパスの施設・設備をどのように活用するか未定ではあるが，そちらをベースに色々な形で広がりをもって地域とつながっていきたいと考えている。

中学校や企業・鯖江商工会議所など，多くの方々の力添えをいただきたい。

事業最終年度となる来年度，様々な発表会や成果物を発信することで，我々の取組みを知ってもらいたい。コロナウイルス感染症が心配ではあるが，来年度少しでも落ち着いて，校外の方に来ていただいたり生徒が外に出たりが今年度より快方に向かうことを祈念している。

引き続き来年度もご指導・ご支援をいただけるとありがたい。